



麦星「アークトゥルス」

うしかい座^ぎの一等星「アークトゥルス」は、黄色とオレンジ色の中間の「小麦色」といった感じの色合いに見えます。そのため、瀬戸内地方^{せとうち}や静岡県^{しずおか}あたりでは「麦星」と呼ばれることがありました。今では、プラネタリウムでもスピカ^{しんじゅ}（真珠星）との対比^{たいひ}で「麦星」と紹介^{しょうかい}することも多く、かなり有名になってきま



5 万年前のアークトゥルスと北斗七星。現在アークトゥルスはうしかい座の足にありますが、頭の上に飛び出しています。

ギャラクシティのプラネタリウム（メディアグローブ SE）で再現

した。一方、アークトゥルス（Arcturus）とはギリシャ語で「クマの番人」という意味とされています。

1718年ハリー彗星^{すいせい}の研究で有名なイギリスのエドモンド・ハリーは、昔の星の位置^{いち}の記録^{きろく}を調べるうち、この星が大きく動いていることに気が付きます。当時は、「星座を作る星（恒星）のお互いの位置関係は時間が経っても変わらない。」と思われていましたので、これは大きな発見でもありました。詳しく調べると、全ての星は目に見えないほどわずかずつですが、勝手気ままに動いています。この動きは「固有運動^{こゆう}」と名づけられました。

アークトゥルスは5 万年前には、おおぐま座のすぐ近くにあったので、クマに関連した名^{かんれん}がつけられたとする説^{せつ}がありますが、これはさすがに無理^{むり}がありそうです。

2021年5月29日記（解説員：田部 一志^{かいせついん たべ いっし}）